

掘削同時検層 (LWD) 解析による南海トラフ付加体の形態 : IODP 314 航海による成果

Structural analysis with LWD data acquired by IODP 314 Expedition

山田 泰広 [1]; 木下 正高 [2]; Tobin Harold[3]; 第 314 次航海乗船研究者一同 IODP[4]

Yasuhiro Yamada[1]; Masataka Kinoshita[2]; Harold Tobin[3]; IODP Expedition 314 Scientists[4]

[1] 京大・工・社会基盤; [2] JAMSTEC; [3] ニューメキシコ工科大; [4] -

[1] Civ. Earth Res. Eng., Kyoto Univ.; [2] JAMSTEC; [3] New Mexico Tech; [4] -

<http://earth.kumst.kyoto-u.ac.jp/yamada/index.html>

IODP 314 航海によって得られた掘削同時検層 (LWD) データを解析することで熊野灘での南海トラフ付加体の構造形態を解析したので報告する。解析によって、斜面堆積物の下に強変形した付加体が、さらに深部に弱変形した断層下盤の地質体が存在することが分かった。また、付加体内部にはフラクチャー帯が認定された。このような構造的特徴は地震探査断面図の反射波の特徴と一致していることから、LWD データを用いてコアスケールの微小変形と地震探査スケールの大変形構造を統合する方法論が構築可能である。